



下境っ子

直方市立下境小学校
校長 塩田 朋久

創立150周年⑨ ～戦後の学校給食～

下境小学校では、1947年(昭和22年)から学校給食が始まりました。戦後は食糧が不足していましたが、子どもたちの発育の助長と健康保持をめざして国が外国の援助を受けながら給食を推進しました。給食は週2回で、乾パンや外国からもらったオレンジジュース、トマトジュース、ジャム、チーズ、粉ミルクなどでした。この頃は、食料不足により朝食を食べることができない子どもが多く、ミルクのつぎ分けの時に、子どもが分量をじろじろと見て教師は大変困ったそうです。昭和24年頃までは、「副食」だけの給食でした。旧日本軍から配給された食材に、家から持ち寄りの野菜を混ぜ、煮込んでおかずを作っていました。それは子どもたちから大変喜ばれたようです。

当時の給食室は、予算がなかったために、なんと!・・・保健室を改造して使用していました。調理員は専属の人がいたのではなく、PTAの方々にボランティアとして交代で作ってもらっていました。やはり、地域や保護者の方々の支援のおかげで子どもたちのお腹を満たすことができていたのですね。

さらに、驚きなのは調理で使用する「水」です。当時、下境小では掃除の水も足りない状態でした。(水道の出は悪く井戸水は少ない) 給食は大量の水を使うために、学校の近くの家々から水をもらいに行っていました(「もらい水」と呼んでいた)。はじめのうちは6年生が中心になっていましたが、その後5年生や4年生も手伝いました。晴れの日はまだしも、雨の日は教師も子どもも濡れながらバケツを持って水をもらいに行っていました。多数の子どもたちが何軒からも水をもらうので、近所の方々には迷惑をかけ、職員は何回となく謝りに行っていました。

以上のような苦労を重ねるとともに、ひとつずつ困難を改善・克服して、昭和41年に給食室を改造し、市の指導援助のもと十分な体制で学校給食は行われるようになりました。



地域に守られ、支えられての下境小学校

戦後、日本は民主化とともに経済が大きく発展していきます。昭和、平成、令和……。学校も充実・発展していき、今に至っています。150周年の下境小学校。これまで、本校のあゆみを調べて一部を紹介してきました。そこには、下境小学校のために幾多の苦難を保護者・地域の方々の支えで乗り越えてきた歴史がありました。皆さんに感謝しかありません。そして、自身がこの長い歴史の中



で本校に関わらせていただいていることを誇りに思います。この連載は、ここで閉じさせていただきます。保護者の皆様に、少しでも本校のあゆみを知っていただけたならば幸いです。

20日に、職員と子どもたちで「下境小学校150周年記念集会」を行います。子どもたちが、下境小学校をもっと好きになって、大切にしていこうとする気持ちを持たせたいと思っています。あわせて、別日には、ドローンで航空写真を撮って思い出を残したいと考えています。

←50年前(創立100周年)の写真